

製品名: KDM3A マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80919**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	147kDa

抗原情報

遺伝子名	KDM3A
別名	TSGA; JMJD1; JHDM2A; JHMD2A; JMJD1A; KIAA0742; DKFZp686A24246; DKFZp686P07111; KDM3A
遺伝子 ID	55818.0
SwissProt ID	Q9Y4C1
免疫原	大腸菌で発現したヒト KDM3A の精製された組み換え断片。

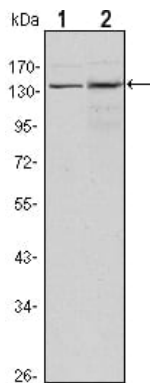
背景

この遺伝子は、十文字ドメインを含むジンクフィンガータンパク質をコードし、ホルモン依存性転写活性化において役割を果たす可

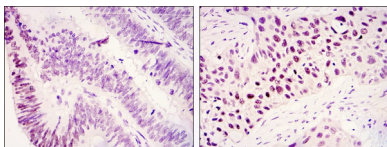
能性がある。JMJD1Aは、モノメチル化およびジメチル化特異的な脱メチル化酵素として機能し、鉄および α -ケトグルタル酸を補因子として結合し、ヒストン H3 のリジン 9 を脱メチル化する。これは、JMJD1A がヒストンコードにおいて中心的な役割を果たし、核ホルモン受容体に基づく転写制御に関与していることを示唆している。さらに、JMJD1A は発生中の細胞増殖の制御とクロマチン制御において重要な役割を果たしている。JMJD1A は、TNP1 およびプロタミン 1 (精子クロマチンの適切なパッケージングと凝縮に必要なタンパク質) の発現を直接制御するため、精子形成において重要な役割を果たしている。

研究分野

画像データ



HeLa (1) および HepG2 (2) 細胞溶解物に対する KDM3A マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



KDM3A マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ヒト大腸癌組織 (左) と肺癌組織 (右) の免疫組織化学分析。